



平成十八年度の高齢者やその家族の方々などからの相談状況は次のとおりでした。  
一年間の相談件数は千五百二十六件で前年度より六十件減少しました。

平成18年度シルバー110番の相談状況  
相談件数やや減少

▼相談件数

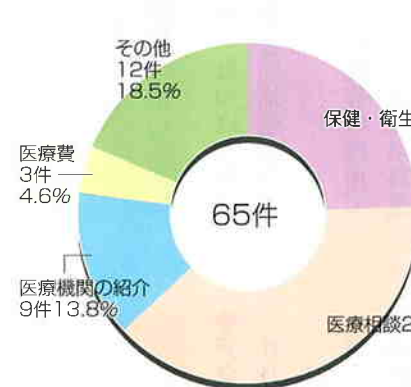
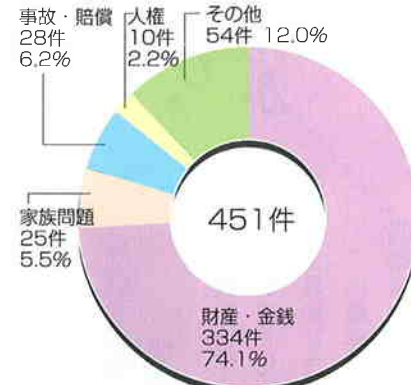
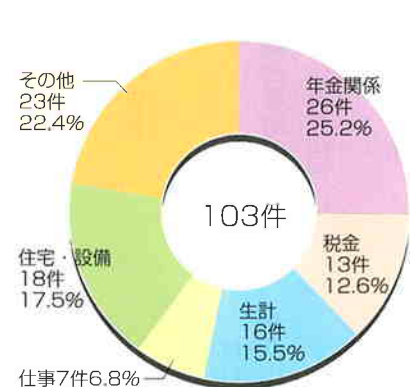
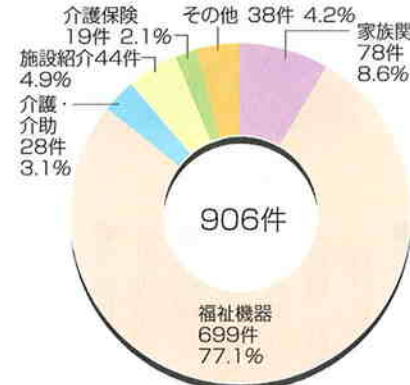
区分	16年度		17年度		18年度		伸び	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	B/A	C/B
老人福祉全般	1,023	58.1	976	61.5	906	59.4	95.4	92.8
経済・生活	89	5.1	81	5.1	103	6.7	91.0	127.2
法律	555	31.5	459	29.0	451	29.6	82.7	98.3
保健・医療	90	5.1	68	4.3	65	4.3	75.6	95.6
いきがづくり	4	0.2	2	0.1	1	0.0	50.0	50.0
合計	1,761	100.0	1,586	100.0	1,526	100.0	88.4	96.2

項目別相談状況

相談内容を項目別にみますと、「老人福祉全般」が906件で前年度同様、最も多く、全体の約6割、次いで「法律」が451件で約3割を占め、この2つで全体の約9割を占めています。全体的に減少しているなかで、年金などの「経済・生活」だけが増加しています。  
また、相談を医師・弁護士・税理士などによる「専門相談」とその他の「一般相談」に分類しますと、「専門相談」が540件で35.4%、「一般相談」が986件で64.5%となっています。  
最も相談件数の多い「老人福祉全般」の中では、在宅介護の推進に欠かせない福祉機器・介

護用品に関する相談が最も多く699件で約8割を占めています。件数で見ますと前年度より99件減少しています。

「年金関係」に関する相談が26件で最も多く「住宅・設備」18件、「生計」16件と続いています。

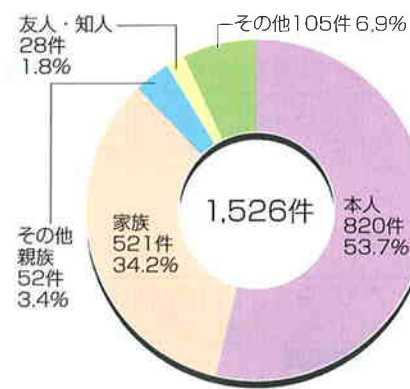


法律 相談件数が2番目に多い「法律」では、相続や借金整理などの「財産・金銭」に関する相談が334件で7割強を占め、以下「事故・賠償」「家族問題」と続いています。

保健・医療 医師による「医療相談」が25件で最も多く約4割を占めています。

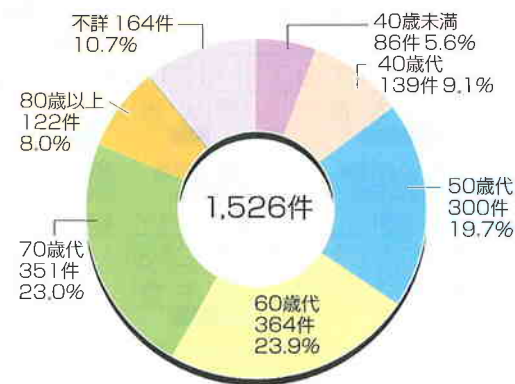
利用形態別相談状況

「本人」からの相談が820件と半数を超え、次いで「家族」「その他親族」で本人を含む身内からの相談が9割強を占めています。「その他」は、市町村社協・施設の職員や民生委員などです。



年齢別

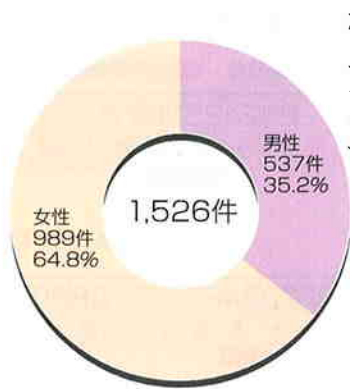
60歳代が364件で最も多く、次いで70歳代351件、50歳代300件と続いています。80歳以上の方からの相談も122件ありました。



しめていますが、離島から49件、県外から46件の相談がありました。

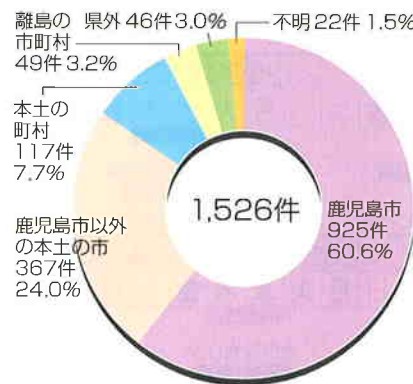
性別

男性537件35.2%に対し、女性989件64.8%となっています。



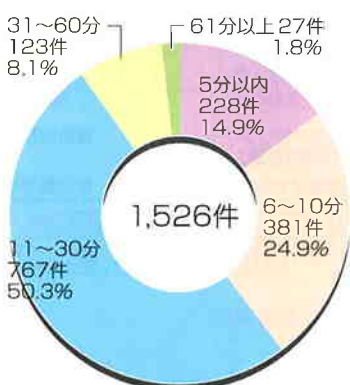
地区別

相談者を居住地別にみますと、鹿児島市が925件で約6割を占めています。



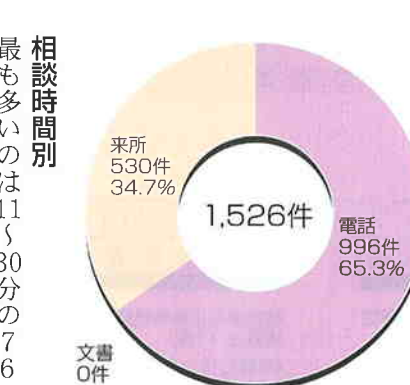
相談時間別

最も多いのは11〜30分の76.7件で約半分を占めています。9割は30分以内の相談でした。1時間以上の長時間の相談が27件ありました。



相談方法別

電話による相談が996件で65.3%、来所530件34.7%となっています。30.3%、来所しての相談が56.7%となっています。



鹿児島シルバー110番 相談無料

相談無料



相談種別	相談日	相談時間	相談員
一般相談	月曜～金曜	9:00～17:00	福祉相談員
健康・介護	月・火・金	13:00～16:00	保健師
医療	毎月第1・第3水	14:00～16:00	医師
年金	毎月第3水曜	9:00～12:00	社会保険労務士
法律	木曜	14:00～16:00	弁護士
税金	毎月第3木曜	9:00～12:00	税理士
住宅	毎月第2・第4木	9:00～12:00	建築士
福祉器機	月曜～金曜	9:00～12:00	福祉器機相談員

099-250-0110  
0220-165270

◎災害被災者相談窓口の開設

平成18年度は、7月の県北部豪雨災害の被災者を対象とした相談窓口を、県弁護士会など関係機関の協力を得まして開設しました。その概要は次のとおりです

- ・期間 8月16日～9月15日の1か月間
- ・相談件数 23件うち重点期間内18件
- ・重点期間 8月16日～8月22日の1週間
- ・相談内容 住宅関係9件や年金関係4件など。